

47 回生の深見利佐子さん（筑波大学大学院博士課程所属）が東京オリンピック柔道競技（女子 57kg 級タイ代表）に出場しました

7月16日（金） 本校の柔道場にて激励会の様子取材していただきました

深見さん（中央画面）にエールを送った佐世保西高の生徒
＝佐世保市、佐世保西高



佐世保西高卒の五輪柔道タイ代表

深見さん 母校が激励会

県立佐世保西高の卒業生で、東京五輪に柔道タイ代表として出場する深見利佐子さん。筑波大学院Ⅱのオンライン激励会が16日、同校であり、後輩たちがエールを送った。

深見さんは父がタイ人、母が日本人。6歳から柔道を始め、高校時代は個人48kg級で2度インターハイ出場。筑波大から筑波大大学院に進み、2018年にジャカルタ・アジア大会52kg級でタイ代表として銅メダルを獲得した。大学院で世界遺産学を学びながら五輪の出場切符を得た。

後輩「勝利を信じ応援」

激励会で生徒会の永安蒼天さん(16)と金子明日美さん(16)が「画面越しではあるが、勝利を信じ応援している」と激励。柔道部の佐々木綾さん(17)は「同じ西高生として尊敬し誇りに思っている。スポーツの力で日本とタイを明るくしてほしい」と語った。生徒らがメッセージを書き込んだ横断幕は後日、深見さんを送るといふ。

深見さんは終了後「一回戦突破が目標。見た人のおもしろいと思える柔道をしたい」と話した。

(山口紗佳)

『長崎新聞』令和3年7月17日

夢の舞台で全力を尽くした深見利佐子（左）。試合後、対戦相手と健闘をたたえ合う
＝日本武道館



柔道 深見 戦い抜いた

佐世保育ちでタイ代表

佐世保育ちの柔道女子タイ代表、深見利佐子（中央）。3姉妹で国際大会に出場してきた



25日、柔道女子52キロ級タイ代表として東京五輪に出場した深見利佐子（27）は、筑波大学院、佐世保市出身。父がタイ人、母が日本

人のタイ名「ウォラシーハ・ガチャコーン」は、3姉妹で目指してきた世界最高の舞台で堂々と戦い抜いた。父のウォラシーハ・タウィシットさん（55）、母の留子さん（54）は家族は、長女の勇姿をライブ配信で見守った。

妹2人の夢も一緒に

大学時代に柔道をしていた父の影響を受け、6歳から佐世保柔道協会少年部で競技を始めた。妹たちも姉の背中を追い、3姉妹で頑張ってきた。佐世保市立白南風小時代の休日は、夏も冬も学校の運動場でトレーニングに励んだ。市立山澄中時代は週末に強豪の世知原へ出稽古に。父は時に叱り、時に褒めながら、娘たち

ちに寄り添い続けた。「勉強も大切」という父の教えで、高校は3人とも県立佐世保西高に進学。長女は個人で出場したインタールハイ前の勉強合宿も普通に参加した。休憩時間にホテルの前の道を走るなど、文武両道を貫いた。姉の姿を見習うように、妹たちも大学院まで進んだ。

タイ代表を志すきっかけは、父のタイの柔道関係者とのつながり。「タイの選考会に出させてもらえないか」。話は進み、3人そろっての挑戦が決まった。金曜の夜の便でバンコクへたち、土曜に着いて試合をして、日曜に日本に帰る強行軍。3人は力を合わせて夢を追ってきた。

3人は2018年ジャカルタ・アジア大会など国際大会にも出場した。だが、次女の由利子さん（24）はけ

が、三女の明香利さん（23）は減量に悩まされ、3姉妹そろっての五輪出場はできなかった。それでも、三女は「普段は明るく陽気な姉だけど、学問との両立を図りながら、ストイックに練習を続けていた。姉の大きな夢がかなってうれし」と喜んだ。次女は「タイの柔道レベルの底上げにつながるとうれしい。私もパリを目指して頑張りたい」と力をもらった様子だった。

残念ながら、長女は初戦で敗れた。でも、母は娘の奮闘に心からの拍手を送った。「彼女の努力や連やタイムニングが重なってビッグチャンスを手に入れた。たくさんの方々に応援していただき、感謝の気持ちでいっぱい。自分の力は出し切ったと思います」（中島英雄）

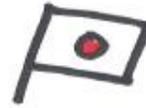
ご本人から応援へのお礼として色紙をいただきました

Some day your chance will come!

応援おがとうございました!



K. Iri



東京オリンピック柔道-52kg級 91代巻

WARASIMA Kachakorn (深見利佐子)

